

神戸銀行 支店長の 視点

長江 敬氏



このところ兵庫県内の金融機関の貸出金残高が大きく増えていきます。3月末までは前年比プラス1%ほどの増加でしたが、4月末に同プラス1・9%、5月末は同プラス4・2%と急増した後、6月末には過去最高の同プラス5・2%まで伸び率が拡大しています。

これは、新型コロナウイルス関連の制度融資の実行が大幅に増加していることが主因です。感染症の影響拡大を受け、県内の多くの企業が資金の調達に動き、地元の金融機関がそれに積極的に対応している状況がうかがわれます。先月、当支店が発表した6月短観でも金融機関の貸出態度判断DIはプラス19で、県内金融機関の融資姿勢が緩和的

コロナ禍と企業の資金繰り

であることが分かります。一方、この間の県内の預金動向は、4月末まで前年比プラス2%程度の増加であったのに対し、6月末は同プラス5・5%と伸び率を急速に高めています。

特別定額給付金の支給による面もありますが、より大きいのは新型コロナウイルス関連融資で調達した資金が企業の預金口座に滞留していることによるものです。

このように県内企業は現時点では、目先の支払いに充当する目的よりも、今後の不測の事態に備えて予防的に資金を手当てしている向きが多いようです。6月短観での企業の資金繰り判断DIはプラス11の「楽である」超となっています。

もつとも、先行きを展望すると、感染症の影響が長期化するともに、企業の資金繰りは徐々に逼迫していくことも想定されます。こうした点を踏まえ、県内企業の資金繰り動向と金融機関の融資スタンスを注視したいと考えています。